



小林市魅力発信プロジェクト「ハッシンコバヤシ!!」

市では、多くの人と一緒に地域の魅力発信の力を高めていく「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトを進めています。このコーナーでは、市役所からの情報だけでなく、高校生記者、市民の投稿などを通して、小林のヒト・モノ・コトの魅力をお届けします。

市政の動きトピックス

移住・定住、関係人口創出

西諸の30企業の声集めました 特設webページや動画で紹介

コロナ禍において、職場体験や企業訪問などが難しい中、地元企業の魅力を多くの人に届けようと、西諸管内の30企業を紹介するWEBページと紹介動画を公開中です(QRコードからアクセスできます)。各社が取り組む事業内容や事業に込める思いを、ぜひご覧ください。



第2次小林市総合計画

後期基本計画の運用に向け 市総合計画等審議会が答申



8月22日、小林市総合計画等審議会(吉丸まさし 政志会長)から第2次市総合計画などの令和3年度評価について答申がありました。吉丸会長は「今回の評価結果が、後期基本計画の運用及び今後の各計画の推進に着実に反映されるよう、強く要望します」と、宮原市長に答申書を渡しました。

●問=企画政策課 Tel 23 - 0456

ニシモロの
企業の声、
集めてみました!

小林市
えびの市
高原町



YOU CAN MAKE IT !!

KOBAYASHI YOUNG

小林の
わけもん
Vol.46

ハッシンコバヤシ!! 高校生記者クラブが取材!
小林にゆかりのある「がんばる若者」を紹介します。

NHK 杯全国高校放送コンテストで好成績

小林秀峰高校 経営情報科/放送部

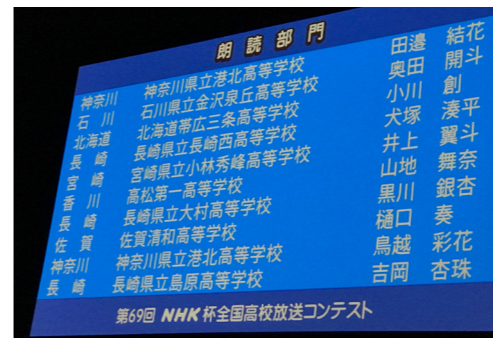
井上翼斗さん(18歳)



小林秀峰高校3年で放送部の井上翼斗さんは、7月に東京で開催された第69回NHK杯全国高校放送コンテストに出場しました。「前回大会の自分を越えるように」と、顧問の先生や部員と切磋琢磨して臨んだ大会。優勝に届かなかったものの、朗読部門の決勝まで見事に勝ち上がりました。「初めて食べ物が喉に通らないほど緊張した」と大会を振り返ります。

放送コンテストの全国大会に出場
大会後も、声優を目指し日々練習

全国のレベルの高さを目の当たりにして、「日常会話で使う言葉や発音に慣れないように、普段から練習していないと全国には通用しない」と改めてインテンションの大切さに気づかされました。現在は声優になるため、専門学校へ進学を目指している井上さん。放送部を引退した今でも、部活に顔をだし、夢を実現するための練習に励んでいます。



7月に東京で開催された第69回NHK杯全国高校放送コンテスト。朗読部門決勝に勝ち上がりました



一緒に小林のよかところをハッシンしよう!
投稿写真から数点を広報紙で紹介します

Instagram & 広報こばやし
#ハッシンコバヤシ

「ハッシンしたい小林の魅力」を写した写真に「#ハッシンコバヤシ」のハッシュタグを付けて、Instagramに投稿しませんか。その中から数点を選び、「広報こばやし」に掲載します。投稿方法など詳しくは、7号か市ホームページ(右QRコード)をご確認ください。



@sono.tekupotaさん



#運動公園 #朝の風景

@kazuminn_0313さん



#生駒高原 #コキアの紅葉

@ipa_logさん



#真方 #虫取り

ハッシン info

ふるさと納税でSDGsを推進

規格外品を独自にブランド化 優良事例としてノミネート

市では、味や品質などに問題のない規格外品に光を当て、ふるさと納税制度の中で「コバヤシB印」と銘打ったお礼品をラインナップしています。このフードロス削減取組などが評価され、ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」を企画・運営する株式会社トラストバンク「ふるさとチョイスアワード2022の自治体職員部門の大賞にノミネートされました。



本プロジェクト品を示すトレードマーク。B品だけどbetter(より良い)品の意味を有しています



食べることができたのに、さまざまな理由で廃棄されてしまう食品を「フードロス」といい、この「フードロス」が、世界的な問題となっています。コバヤシB印は、ふるさと納税で地方を応援するだけでなく、フードロス問題にも貢献できる設計。小林市はふるさと納税においても、SDGsを推進します

我が高校の魅力 全力ハッショ!

コバニシには特徴的な学科がたくさん!

Check!

普通科 { 特別進学コース
公務員コース }

ビジネス総合科 { ビジネスコース
美容コース }

調理科

通信制普通科 **NEW**



その中から今回は **調理科** を紹介します!

Check!

日本料理、中華料理
西洋料理、製菓
を学べます

所得できる資格・検定
調理師免許、技術考査など

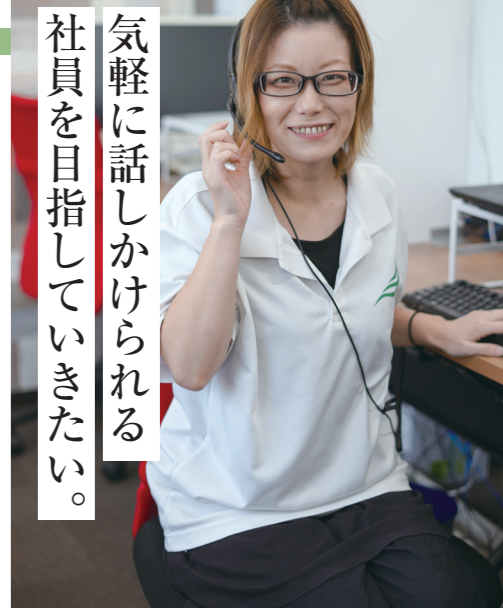


一言メモ：今年から通信制の普通科もできました! 「自分らしく」「自分のペース」で高校生活を送るのに最適です。

ハッシンコバヤシ !! 高校生記者クラブが取材! 市内企業と働く人を紹介します。

小林の **Yell** 仕事と人

市内初のコールセンター「秘書センター株式会社」
宮崎小林CSのエース井上さんにインタビュー。



秘書センター株式会社 宮崎支社
宮崎小林CS オペレーター
井上 香菜さん (37歳)

三松出身。小林工業高校(現:小林秀峰高校)卒。市内で接客業や事務職を経て、秘書センター(株)に入社し、現在4年目。趣味は小説を読むこと。

「入社したきっかけは?」
子どもを保育園に預けるタイミングで仕事を探していました。子育て世代の方が多く勤めていたり、勤務時間の融通が利くことなどが決め手でした。

「担当している仕事は?」
化粧品を扱う会社のお問合せを担当しています。

「お仕事のやりがいはいは?」
電話の最後に「商品使ってみるね」とか「丁寧な対応ありがとうございます」と言われるとやりがいを感じます。

「会社の自慢は?」
仕事に一番大切なのは人間関係だと思うのですが、



秘書センター(株) 宮崎支社
創業 平成28年 従業員30人 募集業種
オペレーター (フルタイム、パート)

上司にも話しかけやすく、質問や困った事など相談しやすい雰囲気の良いところだと思います。

「目指していることは?」
お客様のほか、スタッフからも気軽に話しかけられる、相談しやすい社員を目指していききたいです。

取材後記：今回は小林高校近隣の企業に興味を持ち取材しました。インスタグラムも始めたそうなので見てください。(小林高校チーム)

キャリア教育支援センター(商工会議所内)
キャリア教育コーディネーター
さどはらまこと
佐土原 誠 さん

日々社会情勢が変わる現代を生きる子どもたちのため、今学校教育の現場は、「キャリア教育」に力を入れている。「キャリア教育」と聞くと「世の中の仕事の知識を深めること」と想像しがちだが、その内容は自分や社会を見つめなおすきっかけづくりや、子どもたちが夢を描き実現するためのサポートなど多岐に渡る。小林のキャリア教育を支える佐土原さんに話を聞いた。

私の役割は、子どもたちに社会 を見るための『窓』を付けること

「小林で育つてよかった。そう思って卒業できるような環境を作ってあげたい。」
そう話すのは、今年4月からキャリア教育支援センターでキャリア教育コーディネーターを務める佐土原誠さん、60歳。

子どもたちにはさまざまな経験を積み、自らの将来について考えるきっかけを与える「キャリア教育」。

佐土原さんは、地域社会が持つ教育資源と市内の小・中学校や高等学校のつながりとして、市内のキャリア教育の質の向上に奔走している。

子どもたちと関わってきた佐土原さんが常に心がけるのは、「子どもが主役」のキャリア教育支援だ。

目の前の子どもたちが必ず成長する人材を紹介したいの思いで、日々学校と企画調整を重ねている。

「どうしても学校から外の世界は見えづらい。そこに私が窓を付けるので、子どもたちには窓から将来や社会を見て欲しい」。

講演会などはあくまでもスタートラインで、そこから何を感じ、どういった将来を描くのか自分で決める力をつけて欲しいと話す。

「自然や人材が豊富な小林市。ここで学んだからこそ、社会で通用する人間になれた。そう感じる子どもたちが増えるようこれからも取り組んでいきたい」。

佐土原さんはそう語った。

「キャリア教育は大人も重要」と佐土原さん。市内の若い先生達向けの研修会なども積極的に行い、子どもたちを支える大人の育成にも力を入れている

キャリア教育コーディネーターとしてだけでなく個人としても子どもたちのため活動している佐土原さん(写真は食育活動のため行われた映画上映会)

